

主 題：互いに助け合いなさい ①

聖書箇所：随所

これまで、私たち救われた信仰者は何のために生きているのかということを何回も見て来ました。神様があなたや私を救ってくださったのは、この地上にあって私たちがこの主を証するためであり、主の栄光を現わし、主の偉大さを示して行くためであるということを学んできました。そして前回我々は、そのために神様は聖霊なる神様を与えてくださったのだということを見てきました。神様が救ってくださった目的、生かしてくださっている目的を果たすために、神はあらゆることをしてくださっていて、その神の助けをいただくことによって、私たちはそれを実践することができるということをこれまで見て来たわけです。

でもそれだけではないのです。この目的を果たすために、神様はこうして教会を下されたのです。この目的を果たすために兄弟姉妹としてどのようにかかわり合って生きて行くのか、そのことをきょうは学んでいきます。こうして私たちがともに主を拝するということ、ともに主を崇めるということ、ともに交わりをなすということ、そこには神の偉大な目的があります。我々は信仰者として、兄弟姉妹として、この目的をしっかりと果たすために関わり合って行く必要があります。きょう我々は神様によって一体どういうことをするように教えられているのかを見、来週はどのようにして私たちは実践して行くのかを見ていきます。

A. 主なる神の証をする

先ほどからお話ししているように、私たちは何をするのかというと、主の証をするわけです。私たちはこの世に対して、こんなすばらしい神がおられ、こんなすばらしい救いがあるということを人々に明らかにしていくのです。この働きをなすために、我々は互いに助け合って行きなさいと言うのです。私たちは主の証をなすのですが、みことばを見ると、互いに次のようなことをしなさいということが繰り返し教えられています。神様が何をしてくださるというのではないのです。神のすばらしさを証するために、我々兄弟姉妹として具体的にどういうことをしていくべきなのか、きょう皆さんとご一緒にその具体的な5つのことを見てまいります。そして願わくば私たちがきょうからそのことを実践する者になりたいと願うわけです。

1. 互いに愛し合う

一つ目は互いに愛し合うということです。

1) 主イエスの愛を模倣する

ヨハネ13：34で、主イエス・キリストは「あなたがたに新しい戒めを与えましょう。あなたがたは互いに愛し合いなさい。わたしがあなたがたを愛したように、そのように、あなたがたも互いに愛し合いなさい。」と命じています。ここではまず、互いに愛し合うのだけれども、自分勝手な愛でもって愛し合うのではない。私たちは主イエスの愛を模倣するようにと、イエス様の愛にならって愛を実践するようということとが確かに教えられています。「わたしがあなたがたを愛したように」、これが鍵です。主イエス・キリストが信仰者であるあなたを愛してくださった、その愛をもって兄弟を愛しなさいと教えられています。

もう少し後のヨハネ15：12でも「わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互いに愛し合うこと、これがわたしの戒めです。」と記されています。イエス様はこの「わたしがあなたがたを愛したように、……互いに愛し合いなさい。」という教えを繰り返しておられる。Iヨハネ3：11でも「互いに愛し合うべきであるということは、あなたがたが初めから聞いている教え」だと。3：23でも「神の命令とは、私たちが御子イエス・キリストの御名を信じ、キリストが命じられたとおりに、私たちが互いに愛し合うこと」だと。神は私たちクリスチャンに互いに愛し合いなさいと言いました。しかもイエス様があなたを愛してくださった、その愛にならって隣人を愛することをしなさいと命じているわけです。

イエス様がどんな愛をもってあなたを愛してくださったのか——。わざわざ皆さんに説明する必要はないでしょう。なぜなら皆さんはそのことをよくご存じです。神様のあなたに対する愛、どんな愛をもってあなたが愛されたのか思い出してください。

(1) 一方的な愛

一つ目に私たちは一方的な愛をもって愛されたのです。神ご自身があなたを愛そうと選択されました。この世界じゅうで、人類の歴史の中で、神はあなたを選んでくださり、この救いへと招いてくださった。あなたや私が何かをしたからではなくて、一方的に神があなたを選んでくださり、あなたをこの救いへと導いてくださった。神の選択だったのです。

（２）無条件の愛

また同時に、私たちは神の愛というのは無条件の愛であったことも知っています。私たちが何かいいことをしたからとか、心を入れ替えたからとか、人に親切にするようになったから、神様は私たちを愛してくださったわけではない。我々は神に逆らい続け、罪の中を歩み続けていた。罪に染まって醜く汚れた悪臭を放っている、そういうどうしようもない状態であったにもかかわらず、神が一方的にあなたを愛すると決められたのです。だから私たちはほかの人々と比較をする時に、自分の中に何もすぐれたところがないと感じるのは当然なのです。人間的に見たら我々よりすぐれた人はたくさんいます。でも感謝なことに、その罪深さを知った上で神はあなたを選んでくださり、あなたを愛そうとご自分で選択なさったのです。

（３）犠牲の伴った愛

三つ目に言えることは犠牲の伴った愛です。私たちが覚え続けなければいけないのは、神があなたを愛し、そしてあなたを愛するがゆえに、ご自分のひとり子イエス・キリストをあの十字架にはりつけにして、あなたの身代わりとして殺してくださったという歴史上の事実。このことは、どれだけ大きな犠牲をもってあなたが愛されているかを明らかにしています。

（４）永遠の愛

そして四つ目は永遠の愛です。残念ながら私たちは死を経験する者として、この地上において「死が二人を分かちまで愛しますか」と問いかけます。でも死の存在していない神様の愛は、死でもって終わらないのです。神の愛は永遠なのです。神様はあなたをずっと愛し続けてくださる。その愛はやむことがない。あなたを愛し続けてくださっている、その方と永遠を過ごすことができます。

２）主イエスの愛を実践する：実践の大切さ！

私たちはこんな愛をもって愛されているのです。私はこのような愛をもってあなたを愛した、愛されているあなたはその愛をもって隣人を愛しなさい、このイエス様の愛を実践するようにとイエス様は言われたのです。信仰者であるあなたは主イエス・キリストの愛を模範として、それにならって生きて行くのです。イエス様があなたに示してくれた愛にならって、あなたはその愛を実践するのですが、私たちが今覚えなければいけないことは、我々は、私の愛ではなく、主イエスの愛を実践するということです。私たちの愛を人々に示しましょうと言っているのではないのです。救われた私たちは、主イエスの愛を人々の前に明らかにして行きましょうと言うのです。私たちに必要なのはイエス様の愛を実践すること、言い方を変え、主イエスがどのような愛で愛してくださったのかを人々の前で明らかにすることなのです。もしかしたら我々は、神様によって救われた私たちはすべての人を愛しましょうと勘違いをしているかもしれない。でも悲しいことにできません。私には愛が足りないから、神様、だれでもみんなを愛せるようにもっと愛が必要だと。もちろんそれも大切です。しかし、私たちに必要なことは、どんな愛でもって自分が愛されているのかということを人々に証することなのです。Ⅰヨハネ４：１１「愛する者たち。神がこれほどまでに私たちを愛してくださったのなら、私たちもまた互いに愛し合うべきです。」と、今我々が見て来たように、主がこんなにも自分を愛してくださったことをあなたがわかっているのなら、私たちも互いに愛し合うべきだと。

* 実践の鍵：「神」

そしてその上で４：７「愛する者たち。私たちは、互いに愛し合ひましょう。愛は神から出ているのです。愛のある者はみな神から生まれ、神を知っています。」と、ヨハネは大切なことをここで二つ教えています。

① 「愛のある者はみな神から生まれ、神を知っています。」

私たちがこのイエス様の愛を実践するため、神の愛で人を愛していこうとするのは、「それはあなたが救われていることの証拠なのだ」とヨハネは言うわけです。世の中でも、人々に親切にしましょうとか、愛を示しましょうといった活動がなされています。愛の寄付をお願いしますとか、確かに私たちの周りでクリスチャンでなくてもいっぱいやっています。でもヨハネが私たちに教えてくれることは、我々はそういう愛ではなくて、神の愛をもって人々を愛そうとすると。７節に、「愛のある者はみな神から生まれ、神を知ってい」と記しています。ですから、イエス様の愛をもって人を愛する、神の愛をもって人を愛するというのは、その人が救いに与っている証拠だと言うのです。

② 「愛は神から出ている」

もう一つ、この７節で「愛は神から出ている」と教えています。この愛の実践においても神様がそれを可能にしてくださるのだと。あなたのうちに神がおられたら、その神があなたを通して、愛の神が内住されていること、存在しておられることを明らかにして行かれると。

結論：愛の実践は、「伝道において最も重要なことの一つ。」

そして、ぜひ覚えていただきたいのは、ヨハネ１３：３５「もしあなたがたの互いの間に愛があるなら、

それによって、あなたがたがわたしの弟子であることを、すべての人が認めるのです。』』ということです。もしクリスチャン同士の間に主イエス・キリストの愛が実践されているならば、周りの人々はあなたたちが本当に救われているということを見る。言い方をかえれば、そのような愛を実践しているならば、周りの人々にすばらしい伝道がなされるのです。なぜなら生きて働いておられる神がおられること、愛である神様が存在していることを明らかにするからです。

*** 神のご計画：あなたを通して愛の神を世に示す**

もう一度Ⅰヨハネ4：12に戻ると、「いまだかつて、だれも神を見た者はありません。もし私たちが互いに愛し合うなら、神は私たちのうちにおられ、神の愛が私たちのうちに全うされるのです。」とあります。まず見たいのは「全うされる」と記されているこの動詞です。この「全うされる」というのは目的を達成するとか成し遂げる、また足らないものを満たすという意味を持ったことばです。

① 愛は神から 7・8節

Ⅰヨハネ4章を見ると、恐らくこれからの説明で何を言っているかよくわかっていただけたと思います。

Ⅰヨハネ4：7－8

:7 愛する者たち。私たちは、互いに愛し合ひましょう。愛は神から出ているのです。愛のある者はみな神から生まれ、神を知っています。

:8 愛のない者に、神はわかりません。なぜなら神は愛だからです。

と、この箇所を見ると、まず最初にヨハネは、今話しているこの愛というのはこの世から出たものではなくて、神様ご自身の愛だと言うのです。出所は神なのです。

② その愛はイエスの中に 9節

そして9節「神はそのひとり子を世に遣わし、その方によって私たちに、いのちを得させてくださいました。ここに、神の愛が私たちに示されたのです。」、何の話に移ったかということ、その神様の愛が主イエス・キリストのうちに明らかにされたと言うのです。出所は神です。そしてイエス・キリストのうちにその神の愛が明らかにされた。だからイエス様が来られた時に人々は神の愛がどういうものであるかを見たのです。なぜイエス様は罪人のところにばかり行かれたのか——。なぜ弱い人のところに行かれたのか——。それらを通して神の愛がどういうものであるかが明らかにされたと、この9節に記されているのです。

流れがわかりますか？神の愛がイエスを通して明らかにされたのです。そして先ほどお読みした12節「いまだかつて、だれも神を見た者はありません。もし私たちが互いに愛し合うなら、神は私たちのうちにおられ、神の愛が私たちのうちに全うされるのです。」、ヨハネが言っているメッセージがわかりますか？彼は、確かにだれも神を見たことがないと言っているのです。神は私たちの目で見ることができない存在ではありません。確かに神は霊です。でもだからと言って見ることができないのか——。ヨハネは、いや、見ることができると言うのです。ちょうど主イエス・キリストが地上に来られた時に、人々が彼を通して神を見たように、イエス様がおられない今も人々は神を見ることができると言うのです。だれを通してですか？このみことばは、あなたを通してだと言っているのです。神様によって救われたあなたを通して神の愛が人々の前に明らかにされて行くのです。だから愛し合うことが必要だと言うのです。それも私たち人間の愛ではなくてキリストの愛によって我々が愛し合っていることが必要だ。なぜなら私たちがキリストの愛をいただいた者として、神を愛し、そして人々を愛する者として成長して行くならば、我々から神様の愛が人々の前に明らかにされていく、もっといえば、愛の神があなたを通して明らかにされていくのです。

しかし残念ながら私たち信仰者が抱える問題は、隣人よりも自分を愛することです。悲しいことに私たちは自分が傷ついたとか、こんなにひどい扱いを受けたとすぐに自分のことを考えてしまう。そういったことがしょっちゅうあります。だれかによってつまずいたとか、あのことばに傷ついたとか、あの人がこうだ、この人がこうだと。ちょっと考えていただきたいのは、今私たちが話しているのは、主イエスの愛の話です。イエス様は、主イエスの愛でもって愛しなさいと言われたのです。我々が模範とするのは主イエスの愛なのです。イエス様がどんな愛であなたを愛してくださったのか、思い出してください。もっとはっきりするのは、イエス様がこの地上に来られた時に、イエスを愛する者だけを愛したのかということそうではなかった。イエスの敵を愛したではないですか。イエス自身を傷つけた人々を愛されたではないですか。イエスに対して悪の限りを尽くした人々をイエス様は愛されたではないですか。人々はイエスを十字架にはりつけにするのです。その人々をもイエス様は愛されたではないですか。イエス様は自分の幸せではなくて、人々の幸せを考え、彼らのためにご自分を犠牲にされたのです。その愛をもって人々を愛しなさいと言うのです。自分がどんな扱いを受けるかなどどうでもいいのです。信仰者であれば、イエス様の愛をいただいた者として我々が考えることは、どのようにすればこの人がより幸せになるのかということです。救われていなければ救いに与ることが最高の幸せを得る唯一の道で

す。この後我々はもっと具体的に見て行きますが、クリスチャンであるならばしっかりと神のみことばに従って生きることです。救いに与ることはゴールではないのです。救いに与った者として、地上にあってどのように神の栄光を現わして行くかです。私たちが目指しているのは、イエス様にお会いするその日です。

ヨハネは私たちに、この福音書や手紙を通して主の愛をもって隣人を愛して行きなさいと教え、なぜそれができるかを示しました。あなたはその神の愛を経験したのです。そしてその神の愛を実践するために、もうあなたの中には神の愛が備えられているのです。人々と接し、いろいろなことを言われて悪い感情が出て来る時に、私たちが覚えなければいけないのは、主イエスがどんな愛をもって自分を愛してくださったか——。主よ、どうぞあなたの愛でこの人を愛することができるよう、あなたの愛をもってこの人を受け入れることができるように。そうして信仰者がイエス様の愛を覚えながら、その愛を実践して行く時に、世の中の人たちは我々を通して私たちの偉大な神を知ることになるのです。みことばは私たちにそれを教えてくれているのです。

皆さんはそういう愛を実践していますか？信仰者の中でもあの人が好きだとか、あの人嫌いだとか言っていますか？教会の中にいろいろな派閥が存在して、その派閥に属している人は愛するけれども、そうでない人は愛さないとか、もし私たちの口からあ的人是嫌いだということばが出たら、それは神の愛ではないということ覚えなければいけない。神様は私のような罪人を愛してくださった。もし神がお前は嫌いだと言われたらどうでしょう？どんな愛でもって愛されたのかを知っているあなたがその愛をもって人々を愛しなさい、そうして私たちは私たちが生まれ変わらせてくださったすばらしい愛の神様を明らかにして行くのです。

2. 互いに尊敬し合う

二つ目です。互いに尊敬し合いなさいと言うのです。ローマ12:10に「兄弟愛をもって心から互いに愛し合い、尊敬をもって互いに人を自分よりまさっていると思いなさい。」とあります。「尊敬」と言うと、私たちの社会では尊敬に値する人を尊敬します。辞書で見ると、人格、見識、学問や経験などのすぐれた人を尊び敬うということです。このような経験をされているからとか、このような人格者だからとか、このような学問を会得された方だからとか。そうするとこの世においては尊敬できる人とそうでない人が存在するのです。残念ながらそれは聖書の教えではないのです。聖書は、「尊敬をもって互いに人を自分よりまさっていると思いなさい。」、これが神の言う尊敬だと言うのです。「尊敬」ということばは、人々に敬意を表すことです。ピリピ2:3で「何事でも自己中心や虚栄からすることなく、へりくだって、互いに人を自分よりもすぐれた者と思いなさい。」と。だれから見ても尊敬できるような人だから、私たちは互いに尊敬していますというのではないのです。互いに尊敬している人というのは、自分がどのように扱われようと、それが自分の期待とどれだけかけ離れていようと、人に比べて扱いが正当でないと思えても不満を抱かない人です。人が自分をどんなふうに見ようと、人がどんなふうに分を扱おうとそれに対して不満を抱かないのです。不満を抱くのは、言われていることよりも自分がすぐれていると思っているからです。我々は自分の本当の姿を見た時、自慢できることなど何一つないのです。パウロが言ったように自慢できるのは、こんな自分を救ってくださったイエス様だけです。

そして、このように互いに尊敬し合うということは、自分が一番だなどと絶対に思っていない。非常に謙虚な謙遜な生活をされている人です。「人を自分よりもすぐれた者と思いなさい」、我々が教会の中で人々に接する時に、その人たちを見下していないかどうかです。イエス様が命じたのは、どんな人であったとしても、自分よりもすぐれた人だということをしっかりと覚えて彼らに敬意を払いながら接するのだと。私たちがそれを実践することができたら、今見て来ているように、そのような人に生まれ変わらせてくださった、主イエス・キリストがあなたを通して明らかにされます。

3. 互いに善をし合う

三つ目は互いに善をし合うことです。常に人に対して善を行なうように。Iテサロニケ5:15「だれも悪をもって悪に報いないように気をつけ、お互いの間で、またすべての人に対して、いつも善を行なうよう務めなさい。」と記されています。この「善」ということばはギリシャ語の辞典では神に喜ばれる事物と書いてあります。神様に喜ばれることです。ですから、教会において兄弟姉妹たちが交わる時に、私たちは神のすばらしさを世に証していくという大きな使命をいただいています。そのために私たちはお互いにおいて神が喜ばれることを相手になしていくのです。それは相手がどんな悪を働いたとしても、あなたの責任は常に神がお喜びになることを選択することです。私たちは何度も学んでいることですが、あなたが悪に対して悪でこたえた場合、悲しいことにあなた自身から祝福がなくなります。あなたから喜びや祝福を奪って行くのは罪なのです。確かに心は痛いかもしれないし、つらいかもしれないけれども、もし人の悪に対して神がお喜びになることをあなたが行なっていくならば、あなたはその罪から解放されます。神様はあなたの心を喜びで守ってください。そうやって信仰者は生きて来たのです。そして何

よりもイエス様の生き方はそうでした。イエス様は常に父なる神のみこころを行なった。つまり常に父なる神様が喜びになることを実践し続けたのです。ですから、みことばは私たちに互いに善をし合いなさいと教えてくれます。クリスチャンの皆さん、忘れてはならないのです。人の悪に対して悪でこたえてはなりません。その結果はあなたの身に帰って来ます。しかし私たちが神の前に神が喜ばれることを常に選択するならば、主が喜んでくださり、あなたも喜び、そしてあなたの心は主の喜びに満たされます。

4. 互いに仕え合う

四つ目に互いに仕え合うということが教えられています。ガラテヤ5：13に「兄弟たち。あなたがたは、自由を与えられるために召されたのです。ただ、その自由を肉の働く機会としないで、愛をもって互いに仕えなさい。」とあります。この「仕えなさい」ということばは奴隷として仕えるという意味のことばです。兄弟姉妹がともに集まった時に、私のために何をしてくれるのですかではなく、私は何をして差し上げましょうかと考えるのです。クリスチャンが集まっている教会においてはまさにそうです。ここにいるのはみんな主に仕える者たちです。どうやって仕えて行こうかと。

最後の晩餐の前に二階座敷に弟子たちが集まって来た時に何を話していたのかというと、自分たちの中でだれが一番偉いのかを話していました。それが証拠にその二階座敷に集まった時に、だれひとりとして足を洗うという奴隷の仕事をしようとはしませんでした。なぜなら、みんながだれが私の足を洗ってくれるのかと思っていたのです。だれが洗われました？イエス様でした。イエス様は「主であり師であるこのわたしが、あなたがたの足を洗ったのですから、あなたがたもまた互いに足を洗い合うべきです。：15 わたしがあなたがたにしたとおりに、あなたがたもするように、わたしはあなたがたに模範を示したのです。」(ヨハネ13：14－15)と言われました。最も偉いお方、主なる神ご自身が奴隷の役割を果たされた。すべての被造物によって仕えられるべきお方がその被造物に仕えたのです。

私たちはこうして集まった時に、いろいろな人たちの顔を見ます。大体第一に来られる人と第二に来られる人は決まっています。あの方が休んでいる、この人が来られていないということに気づきます。そうすると、皆さんは心の中でどうしておられるのかと、いろいろなことをしようとします。もしかして風邪かなとか、病気かなと連絡を取ってみる。なかなか連絡がつかなかったら、よくわからないけれど、どうぞ神様、その人を守ってほしいとか、その信仰を成長させてほしいとか、その人のために祈っているかもしれない。私たちはみんなに仕える者としています。お互いのために、お互いがより信仰者としてすばらしい祝福をいただくためにどのようなことができるのか——。そうして私たちはこの群れの中にあって仕え合って行きなさいと。だからみんなが奉仕者なのです。例外はないのです。みんな人々に仕える者として神によって救われ、仕える者として生きています。だからみことばは互いに仕え合いなさいと言っているのです。私のために何をしてくれるのかと問いかけながら、そのことを期待しながら生きるのではないのです。人々のために何ができるのかを考えて生きるのです。

5. 互いに赦し合う

最後に五つ目、互いに赦し合うことです。エペソ4：32に「お互いに親切にし、心の優しい人となり、神がキリストにおいてあなたがたを赦してくださったように、互いに赦し合いなさい。」と、またコロサイ3：13でも「互いに忍び合い、だれかがほかの人に不満を抱くことがあっても、互いに赦し合いなさい。主があなたがたを赦してくださったように、あなたがたもそうしなさい。」とあります。

罪が赦されたことを感謝しているかどうかを見極める方法があります。それはその人が人の罪を喜んで赦すかどうかです。喜んで赦そうとする人は自分が赦されたことを感謝している人です。新約聖書マタイ18：24－34に、1万タラントという到底返すことのできない借金を負ったひとりのしもべが主人によって赦していただいた話がありました。主人はそのしもべを見てかわいそうに思って彼を赦してやった。ところが、赦されたそのしもべがわずか100デナリ、100日分の賃金を貸している人物に出会った時に、かわいそうに思わず、借金を返すまで牢に閉じ込めた。そんな中、彼はあんなに大きな借金を赦していただきながら、100デナリの借金を負っている者を赦していませんと、主人に告げる者があったわけです。それを聞いた主人は、マタイ18：33－34で「私がおまえをあわれんでやったように、おまえも仲間をあわれんでやるべきではないか。」と、非常に怒って「借金を全部返すまで、彼を獄吏に引き渡した。」と記されています。

なぜ主人が怒ったのか——。私たちが覚えなければいけないのは、神は罪をお怒りになるということです。この人物がしたことは正しくなかったのです。あわれみを示さなかったのです。彼が考えていたことは自分のことだけでした。そして主人が怒ったということは、私たちのどんな罪も神はお怒りになるということです。神様が罪をお喜びになることは絶対に、絶対にないのです。主人はその罪に対して怒るのです。そして「彼を獄吏に引き渡した」とあります。この話はどう見ても、クリスチャンに対するものです。「獄吏」というのは、永遠の地獄の話ではありません。自分が赦されたという経験をしていながら、人にあわれみを示さないクリスチャンの話です。これが地獄ではなければ「彼を獄吏に引き渡した」というのは何の話なのか——。その人は大変な試練を経験するというこ

とです。兄弟を赦さないクリスチャンは赦すことを学ぶまで神の懲らしめを経験します。なぜならその生き方はあなたが神様からいただいたあわれみを反映していないからです。あなたの生き方は、神の赦しというのはこういうふうになっているのだということを明らかにしているからです。間違った神を明らかにしているからです。私たちが明らかにする神は、こんな罪人のかしらを一方的に愛して赦してくださった方です。我々信仰者が実践すべきことは、兄弟姉妹の間において人の罪を喜んで赦すことです。皆さんはそういう人ですか？だれかに対して怒りを持って、あの人を赦すことはできない、この人のこれを私は絶対に忘れることはできないと思いませんか？もしあなたのうちにそういう罪が存在しているならば、神様はあなたを懲らしめられます。あなたに喜びがないだけではない。あなたが神様によって赦されたことのすばらしさに気づくまで、神はあなたを懲らしめ続けられる。それは悲しい人生です。赦されたことを喜びながら、感謝しながら、そして赦してくださった神を証する人生が送れるのに、そうでない人生を過ごしている。私の選択は私の神を正確に反映しているものではないと気づかないといけないのです。

私たちはこの神様のすばらしさを世に証するために救われたことを思い出してください。人々はあなたを通して、目に見ることのできない神様を見るのです。あなたを通してどんな神が明らかにされているかです。この方は確かに愛にあふれた神様でした。その方によって救われたゆえに私たちは人々を自分よりもすぐれた者と見ます。私たちはどんなことがあっても、主がそうであったように人々に善を行なおうとします。神が喜ばれることを行なうていこうとします。我々は仕える者として仕えられることよりも仕えることを選択します。そして私たちは神によって赦された罪人であるがゆえに、喜んで赦しを実践しようとしてします。あなたはそういうふうに進んでおられますか？失敗したらそれを神の前に告白しながら、でもそのように生きておられたら、神様はあなたを通してご自身を明らかにしてくださっています。あなたの家庭においても、職場においても、学校においても。新しく生まれ変わった者として、神の栄光を現わす者として生きるというのは、そういうふうに進むことだと聖書は教えてくれています。しかもこの教会の中にあって、このことを実践することが必要です。どうぞ今だれかの話を考えるのではなくて、あなたのことを考えてください。そして願わくばあなた自身がきょうからこんなふうに進んでいきたい、救われた者として神が望んでおられるように生きていきたい、その決心を持って出て行ってください。

《考えましょう》

1. 主は兄弟姉妹がどのような愛で愛し合うことを望んでおられますか？
2. どうして兄弟姉妹が愛することによって、主のすばらしい証がなされるのでしょうか？
3. 兄弟姉妹が赦し合うためには、どうすれば良いと思われますか？
4. 兄弟が赦し合うことなく、いがみ合ったり、争ったりすることがどうして主の栄光を現わさないのか、その理由を記してください。